　２０２１年度事業報告書

特定非営利活動法人くろとり山荘

１．ＮＰＯ活動

２０２１年３月末時点での会員数は正会員33名（昨年41名）、賛助会員91名（昨年97名）となり

正会員、賛助会員とも減少し続けている。会員費は、正会員費137,000円（昨年118,000円）、賛助会員

費283,000円（昨年318,000円）で会員費計420,000円（昨年436,000円）となった。会員費は主に会

報の郵送費、印刷代に使用した。来年度はさらに会員数、会員費が減少していくことが予想される。

会報「山荘だより」は、利用者、ご家族、スタッフの協力を得ながらこれまで通り３ヶ月に１回、年４回発行した。これまで同様、会員をはじめ山荘各町会での回覧や、医療・福祉関係者などへ毎回約４００部発行した。コロナ感染対策もあり、ご家族や地域の方との交流・催しができなかったが、会報で、利用者の紹介、家族の思いやその時々の課題や看護、介護などの啓発活動も行った。ホームページ、ブログの亢進は充分でなかったが、スタッフの提案によりデイの様子などをインスタグラムでも発信するようになり、これまで80件以上の投稿、登録者も350人を超え、フォロワーも徐々に増えている。

寄付していただいた竹林は伐採に今年度も森林ボランティアの方々に協力をいただいて整備し、花を

植えるなどして地域の癒しの場になるように心がけた。地域の方には、駐車場の利用やタケノコ掘りな

どに活用していただいた。

２．デイサービス活動

デイサービスの今年度の経営状況は、年間利用者数が昨年度の3,773人をさらに下回り3,295人、月平均利用者は276.4人となり300人を割った。現在の状態が続けば来年度の年間利用者数は3,000人を下回ることが危惧される。利用率も昨年度67.9％から59.2％と大きく落ち込み60％を割った。死亡等による利用中止者は９名で入院を継続される方も多かった。その反面体験利用者、新規利用者が少なく利用者の減少が続いた。利用者１人当たり単価13,488円は昨年よりやや減少したものの、ほぼこれまで同様高い水準を維持している。地域密着型通所介護で通常の通所介護より基本単位数が高く、介護報酬で加算が可能なものは出来る限り高い算定していることから高単位数となっている。反面、他施設より利用料が高いという面もあり利用を敬遠する一因にもなっている。

デイサービスの事業収益は48,803,299円（昨年度54,312,593円）、経常費用は49,561,197円（昨年度5,890,812円）で、今年度のデイサービスの赤字額は757,898円となり、会費、寄付金を含むＮＰＯ法人全体の赤字額は579,644円となった。利用者減に合わせた人員配置などで人件費の抑制や、ムダな物を見直すなど経費節減に努め、赤字額を最小限抑えた。一方、経営が赤字ながらも職員の労働意欲向上の為、昇給や一時金支給も前年度実績以上行った。年次有給休暇取得も消化日数は充分でないものの、できる限り消化していくように努めた。

経営悪化は新型コロナの影響だけでなく、利用者が重度の方が多く、そのため入院、ショート、また入所、死亡で利用中止となる方が多かったことによる。こうしたリスクを避けるため利用ケアマネに対する利用空き情報を伝えたり、新たなデイサービスパンフレットを作成し、包括支援センターやケアマネを訪問して協力の訴えを行った。また、これまで同様重度の利用者の受け入れだけでなく他市、短時間利用の受け入れも行うようにしたが新たな利用者増にはつながらなかった。

新型コロナウイルス感染防止対策は、これまで同様利用者、スタッフ全員のマスク着用、来所時のうがい、手洗いの励行、消毒剤による清掃、換気などの感染防止対策を継続した。マスクは和泉市や看護協会から、フェースフィールドやガウンは看護協会から多数の寄贈があった。フラワーアレンジメントやドッグセラピーなどのボランティアの方々には年度内の活動自粛をお願いした。ワクチン接種も利用者、職員のほとんどが３回接種を行い、コロナ感染者との接触の疑いある利用者などには抗原検査も行い感染防止に努めた。濃厚接触の疑いのある利用者には個室でガウンなども使用しながら対応した。また、感染防止対策マニュアルの改正やコロナ発生時のシミュレーションも行った。こうした感染防止対策の結果、これまで利用者、職員とも一人も感染者を出さずに経過し、寄贈していただいたマスク以外のガウンなどはほとんど使用しなくて済んだ。ＪＫＡ（競輪とオートレースの補助事業）による感染予防事業は申請して感染対策設備の充実を図ろうとしたが否採択のため実施できなかった。

実地指導が順番に予定されており、その対策として契約書、重要事項説明書や計画書等の書類整理、ＢＣＰ（自然災害、感染症）、高齢者虐待、ハラスメントのマニュアル作成やこれまでのマニュアルの見直しなどを行った。

地域密着型として地域の方にもご利用いただいているが、山荘町住民の利用延べ人数は２０名で変

わらず、現在は３名の方にご利用していただいている。地域の代表の方のご意見を聞く地域密着型通所

介護運営推進会議は年２回開催したが、２０２１年７月はコロナ感染予防対策のため書面合意での開催

となった。２０２２年１月は開催することができ、デイサービスの現状報告とご意見を伺った。こうし

たご意見なども踏まえ、さらに地域の人の要望にも応えていくデイサービスをめざしていきたい。

　昨年は利用者、ご家族から苦情をいただいたのが１５件あり、説明不足によるものが５件あり一番多く、丁寧に説明するように心がけていきたい。その他、連絡帳や連絡袋の確認不足、連絡ミス、送迎時での挨拶・態度、送迎順路、処置のやり方、サービス提供の方法などについてご指摘をいただいた。山荘町住民の方からは職員の通勤車通行の仕方のご指摘もあった。ご指摘いただいた点については苦情処理簿、スタッフ会議等で改善策の検討を行った。

事故は、入浴後移動式リフトでつり上げ移動中に左腕骨折、入浴前に目を離し車椅子から前に転倒、着脱中パイプイスから左側に転倒、の入浴時での事故が３件あり、目を離さないことや、危険予知の徹底などの対策を行った。その他にも送迎時での自転車との接触事故、トイレでの滑り落ちもあった。それぞれの事故については、病院での診察やご家族、ケアマネへの連絡、謝罪などの対応を行った。

インシデント・アクシデント報告は年度計１０６件で、今年も忘れ物が３２件と最も多く、人まちがいや送迎時の見落としなど毎年ほぼ同じミスが多くみられた。再発防止にむけ、スタッフ会議等で改善策を検討しミスを繰り返さない様に努めていきたい。

　災害対策は地震を想定した避難訓練を重度の利用者も含めた全員参加で行った。山荘町第一町会館まで

避難して災害時の意識を高め、問題点を出し合いこれからの避難訓練につながるようにした。消防訓練も

フロアーからの火災を想定し、玄関と事務所からの避難を試みた。訓練後は消防署から火災訓練の講評を

利用者と一緒に聴き今後の教訓とした。